

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2010.6.1

No.71

余談ですが、もう一人龍馬暗殺の犯人と言われる結城無二についても、後に家族全員クリスチャンとなり、牧師として暮らしました。

祈りなさい。それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。」(マタイ五章四十三〜四十五節)

NHK大河ドラマ「龍馬伝」の影響で幕末・明治維新時代が注目されています。明治に入り、それまでの価値観の転換を迫られた多くの人々が、西洋の価値観の基準であった聖書に出会いました。(聖書は東洋で書かれましたが、日本に入ってきたのは西洋経由だったことにご注意下さい！)

まずは、あの龍馬を斬った今井信郎(のぶお)。彼は幕府軍に加わり明治政府と闘いますが、最後は函館五稜郭で敗れ、捕えられ、江戸へ護送されます。その時、龍馬暗殺を自白します。それを聞いた西郷隆盛が敵でありながら助命嘆願をし、結局、静岡に流されました。最終的に恩赦を受けて農民として暮らしました。

その頃、キリスト教に対する嫌悪感はまだまだ強く、今井は昔の腕を買われて宣教師切り込み隊長に選ばれました。しかし、試しに少し読んでみた聖書がくだらないものに思え、暗殺する気にもならなくなりました。その後、攻撃材料を探すために入った教会での説教を聞いて、彼の考えは一転します。真剣に聖書を学び始め、ついに洗礼を受けるに至ります。回心後、性格は柔和に、人を見下しがちだったものが仕えるものになり、それまでみなぎっていた殺意は消え、へりくだったものになったそうです。開拓や農業指導に携わり最後は初倉村の村長になりました。

明治維新の背後に聖書



龍馬のおいにあたる坂本直寛(なおひろ)は自由民権運動を進める若手政治家でした。紆余曲折の後、彼もクリスチャンになります。四十六歳で政界を引退し、北海道で開拓民となり、同時に監獄伝道にも力を入れます。

直寛の兄である坂本直(なお)は、龍馬暗殺後、龍馬の家督を継ぎます。新政府の役人の職を早々に引退し、晩年は弟直寛の家に住み、彼もクリスチャンになります。龍馬の法要の折に今井信郎を招いたそうです。

次に、明確にクリスチャンになったわけはありませんが、聖書の影響を受けたであろう人物、薩摩の西郷隆盛についてです。側近に漢訳聖書を貸し与えたという記述が見つかり、西郷が漢訳聖書を読んでいたことは確かだそうです。当時まだ完全な日本語訳の聖書はありませんでしたが、漢語を読めた日本人は中国で売られている漢語の聖書を読むことはできました。西郷の「敬天愛人」の教えは聖書の以下の箇所が元になっていると言われています。

『「自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め。」と言われたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために



次のような西郷のことも残っています。「人を相手にせず、天を相手にせよ。天を相手にして、己を尽くして人をとがめず、わが誠の足らざるを

尋ぬべし。」「…天は人も我も同一に愛し給うゆえ、我を愛する心をもって人を愛する也」等。

西郷が「天」といつているものは、木や石でできた像ではないことは明白です。この世界を造り、保ち、愛しておられる方がおられるということを彼は信じていました。聖書はその方を「創造主なる神」と呼んでいるのです。幕府でも天皇でもない、本物の主権者なる神と多くの武士たちは出会いました。この方を知り、この方が書かした聖書を学ぶことが新しい日本のために必要だと感じただけです。その後、聖書を締め出し、その実だけ



を用いようとした。今こそ維新のときのように「天」を見出すことができればと願ってやみません。

「こんなことしました！」 行事報告

五月

- 三〇五日 バイブルセミナー（協同学苑）
- 十一日 M 誕生日
- 十八日 塗り絵・工作教室（自画像を描こう①）
- 二十一～二十二日 チア・コンベンション
- 二十四日 北田辺の祖父誕生日会
- 二十八日 お作法教室
- 三十一日 京都見学（金閣寺や銀閣寺など）

チア・コンベンション

H

今年もチア・コンベンションに家族全員で参加しました。これで七回目になります。

このコンベンションで一年に数回しか会うことができないうホームスクールの友達に再会したり、新しい友達も作ったりすることができました。友達たちと、今どのように勉強を進めているか、進路や現状などを互いに聞くことができました。みんな、この先の進路について分からない部分や不安なことがある、と話していました。私も不安なことがたくさんあることを話しました。でも最後、みんな共通して口にしたのは「ホームスクールやっていてよかった！」ということでした。

この日本ではアメリカと比べ、ホームスクールをしている家庭も少なく、ホームスクールを卒業した先輩たちもあまり多くありません。こんな中で私はさきがけとなり、後に続くホームスクーラーたちにとってよき模範となり、またいろいろのアドバイスをしていくことができればいいな、とこのコンベンションを通して思われました。

広島・奈良・北海道・・・全国から集まった友達と再会



おじいちゃんの誕生日会。

とても八十歳には見えない元気さです。

銀閣寺の前で。「銀、塗ってない...」

と、ため息の恵利也

京都訪問

M

「子どもたちの歴史嫌いの理由...：暗記教科と見るからだ」が口癖、教会のMさん夫婦に京都へ連れて行ってもらいました。見学好きの我が家でも、なかなか行けない場所です。しかも、「観光」ではなく「課外授業」、車の中でもMさんが詳しく解説。金閣寺・銀閣寺から上賀茂神社や蚕の社まで、定番からマイナーな所まで、年代順に進みながら、多くの場所に行ってきました。

「歴史学習が楽しくなるのは、地理とセットで勉強したとき」...これが今回、一番教えられたことです。

これまで、僕が歴史を勉強するときには「覚えなさいいけない!」という感情が定着していました。思い起こせば、そのきっかけとなったのは中学時代...書店に行くと、暗記ポイントを羅列したのでしょうか。長い歴史を持つ京都を知ろうとすると「無理矢理、暗記した知識」では太刀打ちできません。しかし、京都の地形「北東は高地、南西は低地」という地理を踏まえて見ると、日本史における人々の行動の理由（なぜ南西部分は人口が少なかったのかなど）や地名の意味が納得できたのでした。今まで覚えてきた点々とした知識がつながっていく感覚は気持ちいいものです。

初夏の京都を自分の足で歩きながら、歴史とまた歴史の学び方について再確認することができ感謝でした。

編集後記

6月26日行われる特別集会のために準備中です。朝の気持ちのいい時間、戸別にパンフレット配布をしたり、夜はコル・シャロームの練習をしたり...。学校にゲスト・ティーチャーとして行くという楽しい企画もありました。